

～道路メンテナンスの実行へ～

高鍋町役場で道路老朽化対策のパネル展を開催！

高度経済成長期に、集中的に建設された橋梁などの道路構造物は、今後急速に高齢化し、10年後には建設後50年経過する橋梁が4割以上になると見込まれます。

今でも静かに危機は進行しています。道路構造物の老朽化は進行を続け、平成25年4月時点において、通行止めや重量制限等の通行規制されている橋梁は、九州において約150箇所（全国約2,000箇所）となっています。

構造物の計画的な点検により早期に損傷を発見し、重大な損傷に至る前に対策を実施する予防保全による維持管理により、道路ストックの長寿命化の取り組みを強化し、大切な資産である道路ストックを長く大切に保全するとともに、安全で安心な道路機能の確保を図ることとします。

このため、九州地方整備局 宮崎・延岡河川国道事務所は、高鍋町役場をお借りして道路の老朽化対策に関するパネル展を以下のとおり実施します。

場所：高鍋町役場1階ロビー 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437番地

日時：平成27年6月18日(水)～7月1日(水) 8:30～17:10（役場閉庁日を除く）

展示パネルの一例

道路施設の現状（高齢化の割合）

◆建設後50年以上（高齢化）の割合

橋梁
九州における橋梁（橋長20m以上）のうち、建設後50年以上経過する橋梁は18%（2012時点）で、10年後（2022年）には44%、20年後（2032年）には68%と半数以上に拡大します。



建設後50年以上経過の橋梁の割合（10年単位）

注：建設年次が不明なものは89%の割合で管理
建設年次が不明なものは100%の割合で管理（明治元年～1987年）として整理

トンネル
九州におけるトンネルのうち、建設後50年以上経過するトンネルは23%（2012時点）存在し、10年後（2022年）には37%、20年後（2032年）には49%と約半数に拡大します。



建設後50年以上経過のトンネルの割合（10年単位）

注：建設年次が不明なものは84%の割合で管理
建設年次が不明なものは100%の割合で管理（明治元年～1987年）として整理

老朽化対策の取り組み（点検技術）

◆老朽化対策における点検技術

・特殊点検車両や船舶等で、みだんは見えない所も近づいて技術者が近接目視点検しています。



橋梁点検車による点検

リフト車による点検

高所作業車による点検



足場設置による点検

特殊高所技術による点検

小型船舶を使用した水上での点検

【問い合わせ先】

宮崎県道路メンテナンス会議 事務局
国土交通省 九州地方整備局 宮崎河川国道事務所
電話：0985-24-8221（代表）

総括保全対策官 植田 定（内線304） 保全対策官 上村 哲也（内線404）

国土交通省 九州地方整備局 延岡河川国道事務所
電話：0982-31-1155（代表）

技術副所長 池田 稔浩（内線205） 道路管理課長 村田 茂男（内線431）